

記入日：令和2年7月29日

所在地（都道府県/市町村）：栃木県足利市		
法人名：社会福祉法人 足利むつみ会		
施設・事業所名：社会就労センターきたざと		担当者名：浅沼 龍太
事業種類：生活介護事業所・就労継続支援A型事業所・就労継続支援B型事業所		
主たる障害：知的		令和2年3月末現在 定員： 60人
TEL:0284-64-7024	FAX:0284-41-4687	E-mail: rasanuma@mutumikai.ecnet.jp

① 令和元年度までの主な取り組み内容

- ・健康管理の強化：出勤及び施設利用時には、検温を実施。
- ・衛生管理等の強化：手指消毒、施設内の手すり及び送迎車両等の消毒。マスク着用（利用者も同様）
- ・昼食の時間差提供：密にならないよう、昼食を時間差及び対面での食事提供をしない。
- ・感染予防強化：職員及び利用者へ、不要不急の外出、人ごみへの外出は避けるよう注意喚起。

② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

【生活介護・B型】

- ・下請け作業（主に自動車部品）において、4月後半から5月にかけて作業の受注量が減り、またリサイクル作業（機密文章裁断）でも実施時期をずらしてほしいなどの要望があり、作業全体の収入が前年の同月比で約45%減となった。

【A型】

- ・就労の場（屋内こどもあそび場）が、2/27～臨時休業のため、通常業務ができないために、利用者の作業確保及び精神的ケアが今まで以上に必要となった。
- ・印刷業務では、イベントキャンセル等の影響により、構成依頼減のため、利用者の作業確保等が必要となった。

③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

事例タイトル：新型コロナウイルス感染拡大予防

取り組み内容：作業環境の整備、健康チェック

- ・対面での作業配置を止め、壁を向いての作業配置や同じ方向を見て作業に取り組めるような作業配置に変更。
- ・どうしても対面作業になってしまう場合は、飛沫防止シートを設置。
- ・作業の入口に手指用の消毒液を設置。
- ・1日2回（午前と午後）検温測定。
- ・職員、利用者へマスク着用の徹底。

④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

- ・工夫をした点については、作業室の限られたスペースの中で、密や飛沫を避けるための作業場所の確保や飛沫防止シートの設置。

⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

- ・体温チェックや消毒、マスク着用について継続的な働きかけをしてきたことで、利用者自身も感染症予防について少しずつ意識できるようになってきた。

⑥ ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

- ・自動手指消毒器（玄関入口）
- ・体温計測&顔認証 AI カメラ（玄関入口、キッズピアあしかが）
- ・手指消毒用アルコールの購入
- ・非接触型体温計（各事業所、送迎用）

⑦ 今後の課題・展望

- ・継続した、新型コロナウイルス感染拡大予防の周知徹底。







キッズピア

